

学校法人東京富士大学 研究者等行動規範

学校法人東京富士大学（以下「本学」という。）は、「学校法人東京富士大学教員倫理規程」第5条の規定の下、本学の学術研究の信頼性及び公平性を確保することを目的として、本学において研究活動を行うすべての者（以下「研究者」という。）に対し、研究を遂行する上で求められる行動規範を「科学者の行動規範」（平成18年日本学術会議策定）に準拠してここに定める。

（研究者の責任）

- 1 研究者は、自ら生み出す専門知識や技術の質を担保する責任を有し、さらに自らの専門知識、技術、経験を活かして、人類の健康と福祉、社会の安全と安寧、そして地球環境の持続性に貢献するという責任を有する。

（研究者の行動）

- 2 研究者は、科学の自律性が社会からの信頼と負託の上に成り立つことを自覚し、常に正直、誠実に判断し、行動する。また、科学研究によって生み出される知の正確さや正当性を、科学的に示す最善の努力をすると共に、研究者コミュニティ、特に自らの専門領域における研究者相互の評価に積極的に参加する。

（自己の研鑽）

- 3 研究者は、自らの専門知識・能力・技芸の維持向上に努めると共に、科学技術と社会・自然環境の関係を広い視野から理解し、常に最善の判断と姿勢を示すようにたゆまず努力する。

（説明と公開）

- 4 研究者は、自らが携わる研究の意義と役割を公開して積極的に説明し、その研究が人間、社会、環境に及ぼし得る影響や起こし得る変化を評価し、その結果を中立性・客観性をもって公表すると共に、社会との建設的な対話を築くように努める。

（研究活動）

- 5 研究者は、自らの研究の立案・計画・申請・実施・報告などの過程において、本規範の趣旨に沿って誠実に行動する。研究・調査データの記録保存や厳正な取り扱いを徹底し、ねつ造、改ざん、盗用などの不正行為を為さず、また加担しない。

（研究環境の整備）

- 6 研究者は、責任ある研究の実施と不正行為の防止を可能にする公正な環境の確立・維持も自らの重要な責務であることを自覚し、研究者コミュニティ及び自らの所属組織の研究環境の質的向上に積極的に取り組む。また、これを達成するた

めに社会の理解と協力が得られるように努める。

(法令の遵守)

7 研究者は、研究の実施、研究費の使用に当たっては、法令や関係規則を遵守する。

(研究対象などへの配慮)

8 研究者は、研究への協力者の人格、人権を尊重し、福利に配慮する。動物などに対しては真摯な態度でこれを扱う。

(他者との関係)

9 研究者は、他者の成果を適切に批判すると同時に、自らの研究に対する批判には謙虚に耳を傾け、誠実な態度で意見を交える。他者の知的成果などの業績を正当に評価し、名誉や知的財産権を尊重する。

(差別の排除)

10 研究者は、研究・教育・学会活動において、人種、性、地位、思想・宗教などによって個人を差別せず、科学的方法に基づき公平に対応して、個人の自由と人格を尊重する。

(利益相反)

11 研究者は、自らの研究、審査、評価、判断などにおいて、個人と組織、あるいは異なる組織間の利益の衝突に十分に注意を払い、公共性に配慮しつつ適切対応する。

(研究活動における不正行為)

12 本規範において対象となる研究活動の不正行為（以下「不正行為」という。）とは、次の各号に掲げる行為をいう。

- ①ねつ造
- ②改ざん
- ③盗用
- ④虚偽申請
- ⑤研究費の不正使用
- ⑥上記各号に掲げる行為の証拠隠滅又は立証妨害

(不正行為に該当しない行為)

13 本規範においては、次に掲げる行為は不正行為に該当しない。

- ①悪意のない誤り
- ②意見の相違

(不正行為の対象となる研究費)

- 1 4 本規範において、不正行為の対象となる研究費は、研究者が当該不正行為に係る研究活動を行うに際して費消した、あらゆる研究資金の研究費とする。

(その他の本学構成員への準用)

- 1 5 研究者以外の本学構成員においても、本規範に準じて本学の学術研究の信頼性及び公平性を損なわない行動をとるよう努めなければならない。